

平成 25 年度 道外（宮崎）視察会の開催について

1. 開催日 平成 25 年 11 月 28 日（木）～30 日（土）
2. 参加者 10 名（事務局含む）
3. 視察先

①清本鐵工(株)

○同社会議室にて、西村常務取締役より企業概況説明をして頂く。

- ・同社は、昭和 12 年に旭化成と九州電力のメンテナンスから創業し昭和 23 年に法人化、従業員は 411 名（H25 年 9 月現在）、売上高 163 億 9227 万円（H25 年 3 月期）、事業所は国内に、4 工場・8 事業所、5 つの海外拠点をもっている他、関連会社を 14 社持つ、鉄工業として南九州トップ。
- ・事業内容は、3 つの事業本部制（製品事業本部・メンテナンス事業本部・鋳鋼事業本部）としており、営業部・製造部・設計技術部から構成されている製品事業本部を中心に説明して頂いた。
- ・製品事業本部は従業員 134 名（H25 年 9 月現在）、平成 24 年度受注量は 3,904 百万円で橋梁・水門等のインフラ事業が 37%、発電設備等のエネルギー事業が 30%を占め、平成 24 年度総生産高は 3,664 百万円。
- ・現状、同社では受注量の 14%を占める食品事業に注力しているとのことで、特に過熱蒸気調理機（スーパーオープン）について説明して頂いた。
- ・今後、更なる成長を期待する事業展開として①温風機（木質ペレットを燃料とした暖房機の開発）、②BP ペレット（竹繊維と樹脂を混合したバイオプラスチック製造技術開発）③木質バイオマス燃料化設備（平成 24 年度から事業を本格的に推進）とのこと。

○会社概況説明後、西村常務取締役、都倉執行役員部長、福島参与他により工場見学。

- ・同社は、2004 年に ISO14001、2008 年には ISO9001 を取得しており工場内は、「見える化」等の改善及び、5 S の徹底が随所に見られた。
 - ・敷地内のスーパーオープンテスト室では実際に食品の調理を実演。オープンにサバの切り身を搬入後、時間をおかず鳥肉を搬入したが、サバの焼き具合は無論、鶏肉への魚の匂いも無かった。
- 工場見学後、会議室にて質疑応答では、同社の清本社長より挨拶頂く。
- ・清本社長より南九州トップの地位を確立するまでの経緯また、水処理事業での中国進出時（15 年前）のご苦労話をお聞かせ頂いた。



同社概要説明風景



工場見学風景



過熱蒸気調理機（スーパーオーブン）



右から二人目が同社、清本社長



同社事務所前（同社の住所が延岡市土々呂町）

② 株式会社フォレストエナジー門川

○同社会議室にて、日吉取締役より企業概況説明をして頂く。

- ・同社は、平成 19 年に資本金 5,000 万円（出資割合：三菱商事 60%、清本鐵工 40%）にて設立。今年 8 月には清本鐵工 100%の子会社となる。
- ・燃料用ペレットの製造・販売を行っており、設計能力は年間 1.6 万トン以上。従業員数は 11 名（平成 25 年 7 月末現在）。
- ・木質ペレットにはホワイトペレット、全木ペレット、バークペレットの 3 種類あり同社は、バークペレットをメインに製造。最近では宮崎県よりハウスの加温機の燃料として全木ペレットの受注が
きているとのこと（県の計画では、5 年後を目途に約 500 台のボイラーを導入し、年間約 13,000 トンの燃料ペレットの需要が見込めるとのこと）。
- ・出荷生産先は、日向製錬所に年間 4～5,000 トン、上述のビニールハウス用及び今年度実績はないが昨年度、東京電力に約 6,000 トンを出荷
- ・ペレットの製造において最も重要なことは、原料の粒度、含水率の安定化とオペレーションとのことで、今期の生産高は 5,000 トンを計画しており、これに必要な原料は 10,000 トンとのこと。
- ・破砕機、乾燥機、粉砕機、異物除去機は清本鐵工が制作したもので、熱風発生機は大河原製作所、成型機はヨーロッパの CPM 社製（世界シェア 7 割）。



同社、日吉取締役による企業説明



工場見学風景



成型機



同社、玄関前にて

③ ㈱日向中島鉄工所

○同社会議室にて、島原社長より挨拶および企業概況説明をして頂く。

- ・同社は、昭和 44 年に先代の島原義海氏により創業。創業当初は、製糖工場の建設に携わりその後、食品工場のメンテナンスを手がける。
- ・平成 3 年に現社屋を取得。敷地面積は 16,500 m²、建屋面積が 3,026 m²。その当時の従業員数は 100 名程度であったが、現在の従業員数は 62 名。
- ・現代取は平成 11 年、37 歳の時に同社に入社。2 年後の平成 13 年に社長に就任するも就任当時は非常に苦労されたとのこと。
- ・2012 年 9 月期の売上高は約 9 億 8 千万円を計上、業務内容はブロイラー処理機械・醸造機械の二本柱であるが、オーダーメイドの製品づくり。
- ・受注型を脱却し、安定した業務も模索。昨年、㈱ひむか野菜光房という、野菜工場を立ち上げた。昨年 6 月に、ハウス施設(4500 平方メートル)を建設し、11 月から 2 種類の葉レタスの栽培を始め 1 年が経過し、単月当たりの利益も取れるようになったとのこと。当初の計画では 1 日当たり 3,500 株の生産としていたが、現在は 1 日当たり 5,000 株の生産。

○その後、引き続き島原社長により、工場および従業員休憩室等を案内していただく。

- ・工場内は、品質・安全・5S の徹底がいたる所で確認することができた他、従業員休憩室には全従業員の免許資格取得一覧表(実績と計画)が掲示されており、人材育成面・技術力強化にも注力していることが窺えた。

○質疑応答

- ・5S 等への取り組みについては、リスクアセスメント・5S・改善活動・安全衛生環境管理で各委員会を設置し、毎月 1 回集まり活動を行っているとのこと。
- ・人事評価は年 2 回行っており、評価はオープンにしているとのこと。また、自己評価・上司評価・部門長評価の 3 つを合わせて、最終的に人事委員会で最終評価としているが自己評価 10%・上司評価 30%・最終評価 60%を加味し評価しているとのこと。

- ・ 昨年の10月より、ポリテクセンターとタイアップし生涯能力開発体系を作成中とのこと。
- ・ 従業員平均年齢は47歳。毎年数名、新卒採用（工業高校卒）しているが3年前より、大卒採用もするようになり現在、大卒者は7名とのこと。



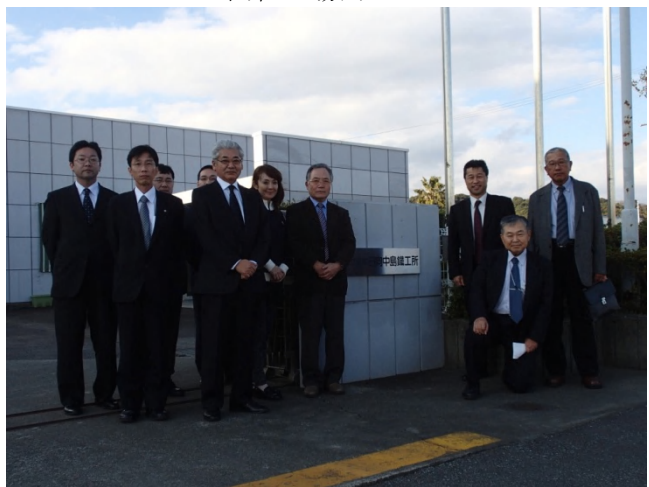
同社、島原社長



同社工場内



見学風景



同社社屋前にて

④その他

西の都アグリ館

- ・ 同館は神楽酒造（宮崎県）西都工場内にある観光物産館。工場見学や焼酎の試飲もでき、水と神話をテーマにしたシアター上映も行っているが、訪問時間が遅かったため、見る事が出来なかった。

鬼の洗濯板

- ・ 道の駅（フェニックス堀切峠）より見学。まるで巨大な洗濯板のように岩が波打ち際に連なる奇観。青島から南に約8kmの海岸線に見られ、岩や石にはパワーが宿るとも言われている。

鵜戸神宮

- ・ ぽっかりと口をあけた断崖の洞窟内に本殿がある、神秘的に満ちた古社。山幸彦（ホヤリ）の妻・トヨタマビノの出産場所と言われ、生まれた子どものウガヤフキアエズノミコト（神武天皇の父）を祀（マツ）る。

飢肥城

- ・ 宇佐八幡宮の神官の出で、日向の地に武士団として勢力を伸ばした土持氏（つちもちし）が南北朝時代に築城したのが始まりと伝えられ、飢肥院とも呼ばれていた。



鵜戸神宮にて

時代は下って、室町時代末期の長禄2年(1458)九州制覇を狙う薩摩の島津氏が、鎌倉時代から日向で勢力を蓄えてきた伊東氏の南下に備えて、志布志城主で島津氏の一族である新納忠統を飢肥城に入城させた。

江戸時代は伊東氏飢肥藩の藩庁として栄え、飢肥市街北部の丘陵に曲輪を幾つも並べた群郭式の平山城で天守は建造されず 1871 年に廃城、日南市史跡の指定文化財指定されている。

- 城跡のほか、城下町にある藩主伊東家の住まいであった「豫章館」、江戸時代の書院造りの屋敷を再現した「松尾の丸」、日本の近代外交の礎を築いた明治の外交官・小村寿太郎の「小村記念館」など見学。



飢肥城大手門